

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年2月13日
【四半期会計期間】	第28期第3四半期（自平成26年10月1日至平成26年12月31日）
【会社名】	株式会社ゴルフ・ドゥ
【英訳名】	GOLF・DO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 伊東 龍也
【本店の所在の場所】	埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番1号
【電話番号】	(048)851-3111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 大井 康生
【最寄りの連絡場所】	埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番1号
【電話番号】	(048)851-3111(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 大井 康生
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所(セントレックス) (愛知県名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第27期 第3四半期連結 累計期間	第28期 第3四半期連結 累計期間	第27期
会計期間	自平成25年 4月1日 至平成25年 12月31日	自平成26年 4月1日 至平成26年 12月31日	自平成25年 4月1日 至平成26年 3月31日
売上高 (千円)	3,348,366	3,288,524	4,312,733
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	8,989	36,283	69,020
四半期純利益又は四半期(当期) 純損失 ( ) (千円)	40,369	20,915	115,487
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	19,527	41,439	96,344
純資産額 (千円)	506,973	501,591	430,392
総資産額 (千円)	2,171,704	2,393,983	2,398,419
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期(当期)純損失 金額 ( ) (円)	32.55	16.86	93.10
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	23.3	20.6	17.9

回次	第27期 第3四半期連結 会計期間	第28期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年 10月1日 至平成25年 12月31日	自平成26年 10月1日 至平成26年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	39.87	9.79

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社は平成25年10月1日付けで株式1株につき、100株の株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額又は四半期(当期)純損失金額( )を算定しております。
4. 第27期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 第27期潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
6. 第28期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について重要な変更はありません。なお、当第1四半期連結会計期間より、連結子会社であった株式会社サクシアは、保有株式の全てを売却したことにより、連結の範囲から除外しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の経済政策への期待などにより、企業の収益性に関しては改善傾向が持続しております。一方、消費税増税による個人消費は低調に推移しており、急速な原油価格の低下による好影響があるものの、円安進行による原材料価格の上昇や海外経済の下振れなどの懸念材料があり、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

ゴルフ業界におきましても、多少回復傾向はみられましたが、2013年12月の「ゼクシオ8（ダンロップ）」のモデルチェンジ時並みにゴルフ用品市場を大きく牽引するほどの影響はなく、消費税増税による生活防衛意識の高まりから、消費に対する節約志向が依然として続いております（矢野経済研究所YPSデータより）。なお、ゴルフ場／練習場の利用者数は、前年同月比10月104.9％／97.2％、11月102.4％／101.0％（経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」）と堅調に推移しております。

このような経営環境のもと当社グループにおきましても、直営事業では秋からのマークダウンや新製品の発表に伴い、中古クラブの売上が大幅に回復し、10、11月と好調に推移しました。しかしながら、12月は急激な天候の崩れや真冬並みの寒さにより、低調な結果となりました。営業販売事業では、依然として円安局面での直輸入商材への発注は減少し、国内特価商材の受注獲得に努めてまいりました。そのような中、今後のFC事業展開も視野に入れた新しいスタイルの中古ショップ「Golfdol Studio」を東京都西東京市の大型練習場内に平成26年12月20日「田無ファミリーランド店」として開店いたしました。当店舗はリペア工房や地クラブパーツを強化しており、新たなコンセプトショップの展開を目指しております。

なお、当第3四半期連結累計期間におきましては2店舗出店、2店舗閉店となり、平成26年12月末日現在の営業店舗数は全国で合計75店舗となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は売上高が32億88百万円（前年第3四半期連結累計期間33億48百万円）、営業利益が40百万円（同営業利益11百万円）、四半期純利益は20百万円（同四半期純損失40百万円）となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりであります。

#### 直営事業

当第3四半期連結累計期間における直営事業の売上高は22億57百万円（前第3四半期連結累計期間21億35百万円）となりました。また、セグメント利益は1億31百万円（同95百万円）となりました。

#### フランチャイズ事業

当第3四半期連結累計期間におけるフランチャイズ事業の売上高は3億4百万円（前第3四半期連結累計期間2億90百万円）となりました。また、セグメント利益は1億20百万円（同1億21百万円）となりました。

#### 営業販売事業

当第3四半期連結累計期間における営業販売事業の売上高は7億26百万円（前第3四半期連結累計期間9億22百万円）となりました。また、セグメント損失は13百万円（同損失6百万円）となりました。

#### (2)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (3)研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,400,000
計	4,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,311,300	1,311,300	名古屋証券取引所 (セントレックス)	単元株式数 100株
計	1,311,300	1,311,300	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年 月 日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日	-	1,311,300	-	501,320	-	178,372

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 70,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,240,200	12,402	-
単元未満株式	普通株式 200	-	-
発行済株式総数	1,311,300	-	-
総株主の議決権	-	12,402	-

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ゴルフ・ドゥ	埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番1号	70,900	-	70,900	5.40
計	-	70,900	-	70,900	5.40

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	416,617	488,672
受取手形及び売掛金	224,924	191,859
商品	1,046,707	970,383
繰延税金資産	28,301	22,964
その他	57,863	56,009
貸倒引当金	1,179	1,170
流動資産合計	1,773,236	1,728,718
固定資産		
有形固定資産	224,663	203,880
無形固定資産	47,173	44,769
投資その他の資産		
投資有価証券	19,611	19,865
敷金及び保証金	159,692	156,991
建設協力金	130,718	122,882
繰延税金資産	3,286	3,849
その他	42,205	115,194
貸倒引当金	2,167	2,167
投資その他の資産合計	353,346	416,615
固定資産合計	625,182	665,265
資産合計	2,398,419	2,393,983
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	224,273	228,649
短期借入金	378,477	400,000
1年内返済予定の長期借入金	276,276	287,480
未払法人税等	7,052	6,572
賞与引当金	21,001	10,067
ポイント引当金	24,385	30,381
その他	144,768	153,234
流動負債合計	1,076,235	1,116,384
固定負債		
長期借入金	679,806	562,802
繰延税金負債	7,619	7,921
退職給付に係る負債	123,623	126,183
資産除去債務	34,942	36,300
その他	45,800	42,800
固定負債合計	891,791	776,008
負債合計	1,968,026	1,892,392

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	501,320	501,320
資本剰余金	178,372	178,372
利益剰余金	256,107	214,979
自己株式	23,625	23,649
株主資本合計	399,960	441,064
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,606	2,860
為替換算調整勘定	27,826	48,096
その他の包括利益累計額合計	30,432	50,956
新株予約権	-	9,570
純資産合計	430,392	501,591
負債純資産合計	2,398,419	2,393,983



## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	3,348,366	3,288,524
売上原価	2,215,471	2,078,924
売上総利益	1,132,895	1,209,599
販売費及び一般管理費	1,121,197	1,168,991
営業利益	11,697	40,608
営業外収益		
受取利息	2,493	3,847
受取手数料	2,378	2,476
為替差益	2,249	-
その他	204	799
営業外収益合計	7,325	7,124
営業外費用		
支払利息	9,653	10,497
その他	380	952
営業外費用合計	10,034	11,449
経常利益	8,989	36,283
特別利益		
子会社株式売却益	-	3,600
特別利益合計	-	3,600
特別損失		
減損損失	26,214	-
特別損失合計	26,214	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	17,225	39,883
法人税、住民税及び事業税	11,559	13,328
法人税等調整額	11,584	5,639
法人税等合計	23,143	18,968
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	40,369	20,915
四半期純利益又は四半期純損失( )	40,369	20,915

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	40,369	20,915
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,675	254
為替換算調整勘定	17,166	20,269
その他の包括利益合計	20,841	20,524
四半期包括利益	19,527	41,439
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,527	41,439

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

当第1四半期連結会計期間より、連結子会社であった株式会社サクシアは、保有株式の全てを売却したことにより、連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

減損損失

前第3四半期累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

前第3四半期連結累計期間において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	減損損失(千円)
-	のれん	-	26,214

スクエアツウ・ジャパン株式会社 The Golf Exchange Inc.に係るのれんについて、取得時に検討した事業計画において、当初想定していた収益を見込めなくなったことから、帳簿価額全額を減額しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
減価償却費	34,613千円	38,119千円
のれんの償却額	13,107	-

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)2
	直営	フラン チャイズ	営業販売	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,135,359	290,412	922,594	3,348,366	-	3,348,366
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	2,135,359	290,412	922,594	3,348,366	-	3,348,366
セグメント利益又は損失( )	95,151	121,071	6,311	209,910	198,213	11,697

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額は、のれんの償却費 13,107千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. のれんについて、26,214千円の減損損失を計上しております。減損損失の概要につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(四半期連結損益計算書関係)」をご参照ください。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 財務諸表 計上額 (注)3
	直営	フラン チャイズ	営業販売	合計			
売上高							
外部顧客への売上高	2,257,838	304,399	726,196	3,288,434	89	-	3,288,524
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	939	939	-
計	2,257,838	304,399	726,196	3,288,434	1,028	939	3,288,524
セグメント利益又は損失( )	131,567	120,464	13,346	238,685	14,422	183,654	40,608

(注)1. その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、マーケティング支援事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年12月31日 )	当第 3 四半期連結累計期間 ( 自 平成26年 4 月 1 日 至 平成26年12月31日 )
1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額 ( )	32円55銭	16円86銭
( 算定上の基礎 )		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( ) ( 千円 )	40,369	20,915
普通株主に帰属しない金額 ( 千円 )	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( ) ( 千円 )	40,369	20,915
普通株式の期中平均株式数 ( 株 )	1,240,400	1,240,390
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	平成26年 5 月26日取締役会決議の新株予約権 普通株式 30,000株

( 注 ) 1 . 当社は平成25年10月 1 日付けで株式 1 株につき、100株の株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額を算定しております。

2 . 前第 3 四半期連結累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、当第 3 四半期連結累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

( 重要な後発事象 )

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月9日

株式会社ゴルフ・ドゥ

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松本 保 範 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 瀬戸 卓 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ゴルフ・ドゥの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ゴルフ・ドゥ及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。